壬申
癸酉

明治五六年●記

早稲田大学図書館
文書27
A 41

明治五年壬申

二月十六日

今日も天気好く早く発次舟宿へ参り三弥次郎を
舟を傭い玉野屋へ参り おきん 兼吉 伊勢屋 人足弐人
萬蔵 まつ 三人共乗まりないまく 源屋庵 平蔵 ち
竹蔵 子二人 備し 呉れ 源左衛門 を 外 算筆 を 舟
に 入れ 口 ゆく〜 大八 と 萬 〜 乗 り 出 を 三 浦 屋 善
玉 屋 善 兵 衛 浦 屋 双 六 金 米 穀 扶 米 直 の 人 力 車 を 演
町 に 六 月 一 郎 阪 彦 治 左 源 左 四 郎 皆 〜 揃 陸 岸
人 足 で 風 代 を 兼 乗 料 理 屋 の 酒 肴 十 五 人 前 十 五 代
酒 肴 沙 弓 米 外 み 新 用 代 を 三 弥 米 代 沙 弓 兼 吉 を
に 沙 弓 おきん に 一 分 秀 次 おきん に 米 吉 を 陸 彦 左 ば め
酒 を 肴 沙 弓

十七

朝早く起く旦那様と共に朝飯済ませ十坂森ちゃん書
関屋平野屋へ西洋燈籠買ひに行く

十八

雨降り出して朝早くより菓子拵へ直ぐ持参致す旦那様
坂の千坂兄弟まいらる茶宴持参致す旦那様
お勝様うけ申す和加へ寄り夜おそくかいらる

十九

しとゝ雨降り十坂様お勝様つらけ森ちゃまいらる伝兵衛
さま寄り番頭さんより直ぐと百匁あり土産かいらる
入澤と黒井ちゃまいらる

廿

しとゝ雨 朝早く入澤と旦那様いらせ

旦那様院知様千坂様ちゃ嶋ちゃ與一あさ子様伝兵衛様
十二時頃発

本様ちゃ奥様はゆる京都へ出立 平野屋へ七時頃着
八ツ後より毎日菓子一箱世話致す大八
おつかい道さき菓子新しく致さこの寄り頂かけ
平家菓子茶菓子酒肴し祝さこの寄り頂かけ
後ろ子高砂茶菓子祝さこの寄り頂かけ 人力さき芝山内森

廿一

旦那様院様 出発の見

廿二

廿三

家去る前ら寄る茶菓子酒肴蓬莱新一重
伊勢奥様 栄の下僕さき出れ来ら あしら一羽菓子

一笠物茶菓子鄭寄別百人の中世話四人
前中外ケ原奥さえこれから出て他家そいをきいの
表より高き重箱ずつ(金果糖一袋氷豆腐猪口けずを
僕の者へ送る
昼頃お勅使くる鳥居みつを他
りこん人へ百表紙ずつ(ひらけの橋ちお六を連れ
て七時頃かへる表より茶菓子ずつ(屋敷へ今夜
なを奥へ力をそへます
宮様昼ごはんお対面(伺の新やのもち沙引を栗ごと
ら小菓子物茶菓子菓子持がめ(さ)ず名方おきし
ちおかみつ指ずる新表又一枚の丹波ちゑ一人
人ずつ

廿四日

天気好(秋早く森ちまいらる茶菓子ずつ)
昼頃(ごはんお勅使ごはんと持参中之間ニ通別茶
ちぐるる山者ゑ茶ゑ(ごはれ時四ツ
茶ゑ(ごはん)茶菓子頂め(さ)ず八時四ツ
大ハおかきこつみられ洗湯の茶
表ちく黒ハよ羽織地一反山形の抄抄一帖引茶

廿五日

天大雪ゑ(秋早くお勅使ごくる持参が六条平野
殿ゑ(おきて茶ゑ昼頃ごはんさまの方ゑ出ごと
ゑ(ごはんごくる持参が六条ごくて書面ちまる茶
菓子ずつ
山者ゑ(人ずつ廿五日持参報者報ごゑ(ごはり
昼頃留ごゑの新ゑ茶ゑ(ごはの頃

廿二日

[illegible]早く小倉庵より菓子頂戴致候
[illegible]三分以外之儀候間切に求む鷲甲斐まで[illegible]
[illegible]
[illegible]

廿三日

天氣好　[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

佛光

二十日

朝早く小倉庵より寄合菓子持来菓子頂戴致
[illegible]
十時御勤行[illegible]
大工三人　人夫二人来
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

二十日

朝早く[illegible]
[illegible]

写真屋へ頼み写真を撮る。
月琴和歌門弟中より森ちよより腰掛と風呂敷持来
右の婦人娘共菓子を拵ひ
須坂県役人共見舞の酒三剣一本三合来る求め
義助まちらす酒おちらす酒和らちんと書付をもち来る
酒ならべ来る
夕方より坂縣藩より年酒茶一ツ
夜千代吉
二月朔日 晴
七ツ天気 須坂縣浦野澳郎
年賀菓子来る 十時より役人全く年賀
了ける きくの人も拵来 茶菓子来る 百匹より上書
ら朝廷より酒肴さ 二時頃少し雪来る 夜
七ツ 万吉 張師をつも 金来 糸屋拵来る 年賀

菓子さ 月琴和歌門弟中 須坂兵八郎 まいらる 茶菓子
宇津江 右 茶菓子 一ツ 夕坂さ
大工 人 すゝ 酒三人 茶酒 屋三郎
芝ちお 酒 茶酒 屋三郎
おく 拵 書 拵来
二日
徳昌 拵 草 山吉 来る 苔澤 来 出ぐ
和歌門弟より 苔澤 山吉 百匹 拵
三人 お中 酒 九郎
伊藤幸 拵 来 拵せられ 来る
三日
七ツ 雨降 十時 和歌門弟 森ちよ 来
二合 酒 来 夕 腹 来

四日

今日の天氣よし　十時より旦那寺四上様の氣しるし吉
屋の訪あり　番頭　清助　来る　お三さん
より板おろす

五日

昨夜より雨降り九時前後に後藤さんあられ
おかちゃかり伊勢屋四郎右衛門さんいでる　中村屋
料理を取り外の引きとる豆腐へのりさし切り
大工大海内さん　秀次さん　棟の伊さん
今日　長本様　三條様が牛の乳買まる　長本
所　寺屋　角屋　秀次　久保　可地　つかれ氣

六日

昨夜四つ　降り　あめ　六時　そとん　ひく　あさ　ちゃ　切り

芝長屋の佐吉　亜吉　つら　早く　後月　じん氣　来り　出張
と大八　ちまれ　芝長　角氣　後藤　奥様　娘　振舞
七日　本郷を借りていた　大繁盛　神　宿　旦那
と秀次　おまさ　おかみ　角屋　長　角屋　山吉　芝民
と藤　飛　さまざま　祝　酒　切り　猪　神　宿
大工　角

七日

天氣好し　九時　出　新吉　降り　けい　亜吉　あられ　北
紙　屋　下二豆　角氣　角屋　小倉屋　高　鶴　春
打　清　改　先　礼　禮　だ　氣　茶菓子　切り
西條　鄭　女房　病　つ　ま　みん　一　出　茶菓　注　切り

八日

昨早く　山吉　まれ　茶菓　菓子　飯　切り　下四人　屋敷

つゝ酒より大工し頭領酒より伊勢屋ゟ九年母
七つ到来旦那八時分勘定ゟ山吉ゟ酒の祝ゟ
ゟ荷澤じ来九時ゟ酒四人ゟ大工四人来ル一人ゟ
七ツ半時 秀四郎ゟけつとゟ傳吉

九日

天気好し旦那十時分勘定宮時戸開ゟ出る
乃蔵殺しかへゟ来ル掛聲稽古
平勘ゟ西沢様ゟ来ル皆てん年ゟ酒とくれる
張師一人大工二人手伝一人左官二人まゝ酒ゟ
大工ゟ来ル長兵衛ゟ来ル米ゟ酒ゟ
おくみ皆ゟ来ル切銅板ゟ傳ゟ杉ハ出ル
沙ゟ来ル西ゟ来ル心からいゟ来ル
伊勢屋四郎様ゟ来ル長兵衛ゟ来ル

十日

両障子ゟ来ル彩色早くゟ内掛鍋一ツ支度ゟ来ル
織一反黒八丈外ゟ来ル
羅紗掛織一ツ頼みゟ来ル
且那ゟ来ル内田四郎兵衛ゟ来ル
大工二人ゟ一人ゟ

十日

おくみ両障ゟ十時ゟ後家さんゟ内田四郎兵衛さん
下ゟ来ル庭ゟ来ル
大工一人手伝一人ゟ大工二人
左官ゟ方吉ゟ来ル長兵衛ゟ来ル
ゟ酒ゟ来ル七時ゟ酒ゟ
大工ゟ手伝ゟ

十二日

天氣晴　月野氏妹ヲ訪ヒ代ヲ受ケ一切ノ
伊藤梅庵茶菓ヲ備ヘラル一緒ニ茶菓ヲサヽヘ
秀四郎ヲ呼ヒ酒ヲ勧ム　岸信陽ヲ訪ハル
見てもらひ来ル　秀四郎ヲ訪ヒ酒ヲ勧ム
夕方ヨリ踏我庵ニ於テ酒宴　孝人力ヲ十時頃帰ル
お花母親ヲ始メ皆ヲ使年賀状来ル

明治廿七年　日記出　初巻

二月　百時

北野ヨリ大八輪車ヲ出ス　猪ヲ乗平野屋房次郎ヲ訪ヒ
皆ヲ船ニ向ヒ
虎吉郎　月見ヲ本宮ヨリ下ル　水仙ヲ書画ヲ稿ヲ
おきん　雑ヲ一羽ヲ餅ヲ書出ス　持来ル
芝ヲ出ス　余ヲ送ル　反吹
古墨
森寺ヨリ馬ヲ来ル　前馬ヲ乗ル来
おうた　年賀状
三日　墨仙ヲ
月野ヨリ馬車ニ出勤
月野中村屋ヨリ　十二時ニ調合
四月墨風

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十日晴

十一日 雨

旦那寺より使出る故本書殿同道候

十二日晴

本川源岸西より鍛冶所植田氏来

来薬屋より毛氏相手代弥金殿より出行御用

相勤候

十三日 前より雨

京屋より一月より背と家代三十五匁与兵衛殿

来薬屋より西境右衛門殿

ちよう馬吸出

十四日晴

出行来書殿同道長谷太郎左衛門殿

十五日

宿部出ちよう下ゐ集ゐ御礼に出勤

ゐ御祭礼

ちよう来書殿同道出行中里殿

馬車清兵衛 七ツ半過出

獣肉御用なきと矢目

ちよう故障に付出

十六日 雨

玄関前ゑ馬車出ス神社 柳崎来書殿同道

さ一ツ半

おきん殿より自分御用等与四日出発

相手ゐ宿ゐ来書殿

十七日晴

おまんおだ却さん方見物いらしゃれ参てと申事
長野殿事そこそこ[illegible]
[illegible]
原の芝居みに行
長谷殿浜屋[illegible]
[illegible]

十八日晴風
[illegible]
[illegible]
二十日晴
長谷殿より[illegible]
長野殿森[illegible]
二十一日晴　芥川氏より[illegible]

伊勢さだ[illegible]
芥川澤八来馬事[illegible]
廿三日晴
関口芥川澤[illegible]
市之丞[illegible]
廿四日
[illegible]山[illegible]
且那[illegible]
芥川[illegible]
[illegible]
廿六日晴
金剛さだ八[illegible]
廿七日晴

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二十八日

[illegible]

[illegible]